

# イタリアンライグラスの 収量アップを目指しましょう!

平成31年3月

輸入飼料の価格が高騰している今、自給飼料の増産は、経営改善のための重要な課題となっています。自給飼料の増産には色々な方法がありますが、『**奨励品種の作付**』や『**適切な播種時期・播種量・施肥量**』など、様々な技術を組み合わせることで、収量アップが期待できます。

畜産酪農研究センターで行った試験結果と収量向上技術について紹介します。

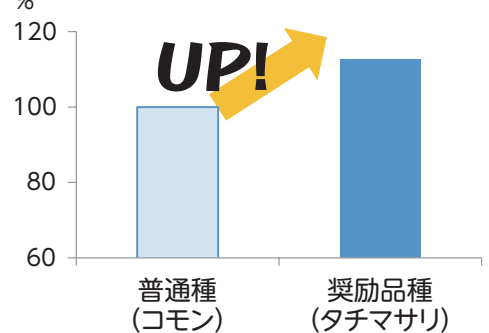
## 奨励品種を作付しましょう!

県では毎年様々な品種の栽培試験を行い、地域の気象条件への適性、収量や病気への抵抗性に優れた品種を県の『**奨励品種**』又は『**認定品種**』に指定しています。

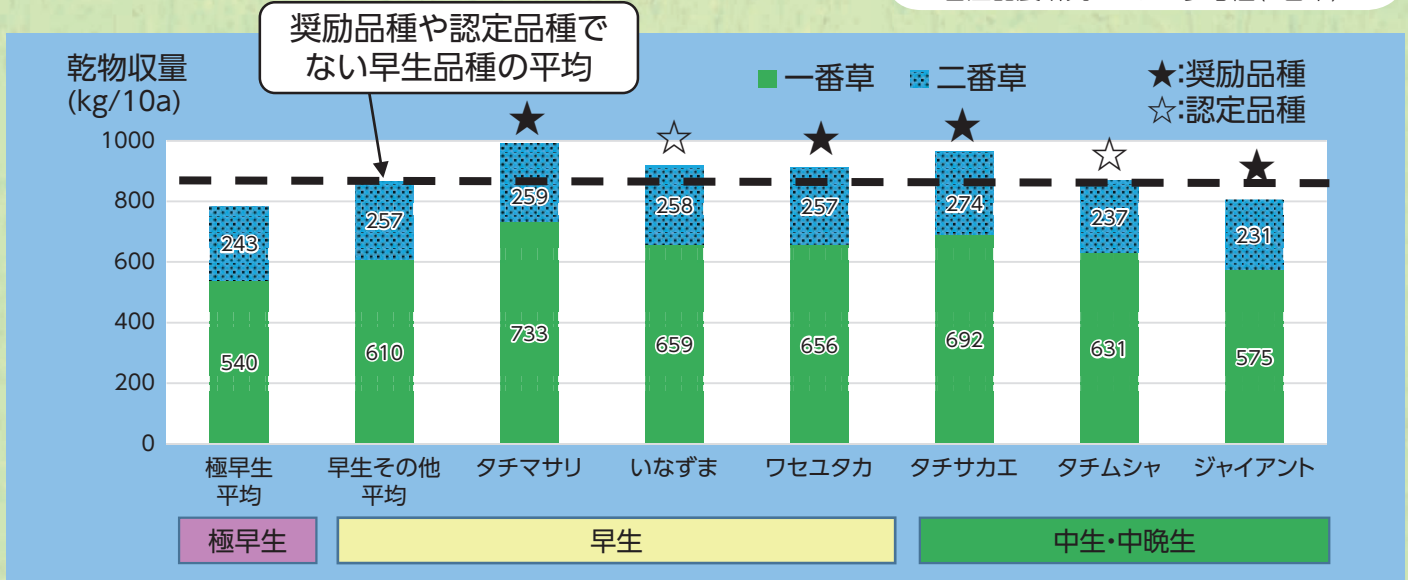
奨励品種の種子は普通種と比較して高価ですが、種子価格以上の収量アップが期待できます。

## 乾物収量が**10%アップ!**

<栽培品種と乾物収量>



※普通種の乾物収量を100%とした値  
畜産酪農研究センター参考値(1番草)



(※平成23~25年調査の平均値)

## 普通種(コモン)がなくなるの?

なくなりませんが、名前が変更されます。

飼料作物種子の品種表示について運用基準が制定され、「普通種(コモン)」という名称は、品種名だけでなく、商品名としても表示しないこととなったためです。

普通種(コモン)は、種子代が安い反面、特性が不明で、収量が安定しないといったデメリットがあります。

イタリアンライグラスの播種適期は、県内では10月上旬から中旬とされています。しかし近年、台風や秋雨前線による長雨などの天候不良により作業が進まず、播種が遅れる傾向にあり、収量減少のリスクが高まっています。

## 適期に播種しましょう!

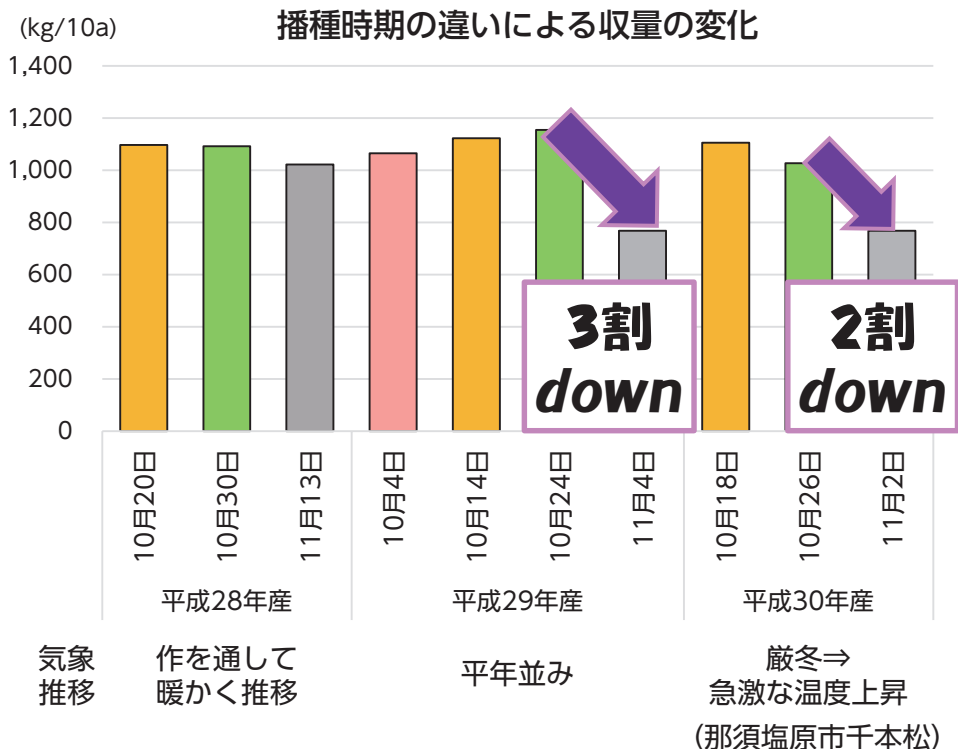
播種時期が遅くなっていませんか?

### 県北では10月中の播種が必須です!

平成28年産から30年産で播種時期を変えて収量の比較を行いました。

気温が作期をとおして暖かく推移した年は、播種時期が11月になっても収量はほとんど変わりませんでした。

しかし、気温が平年並、または寒い年では、11月播種は10月播種に比べ2~3割も減少しました。



イタリアンライグラスの収量確保には、何が大事でしょうか?

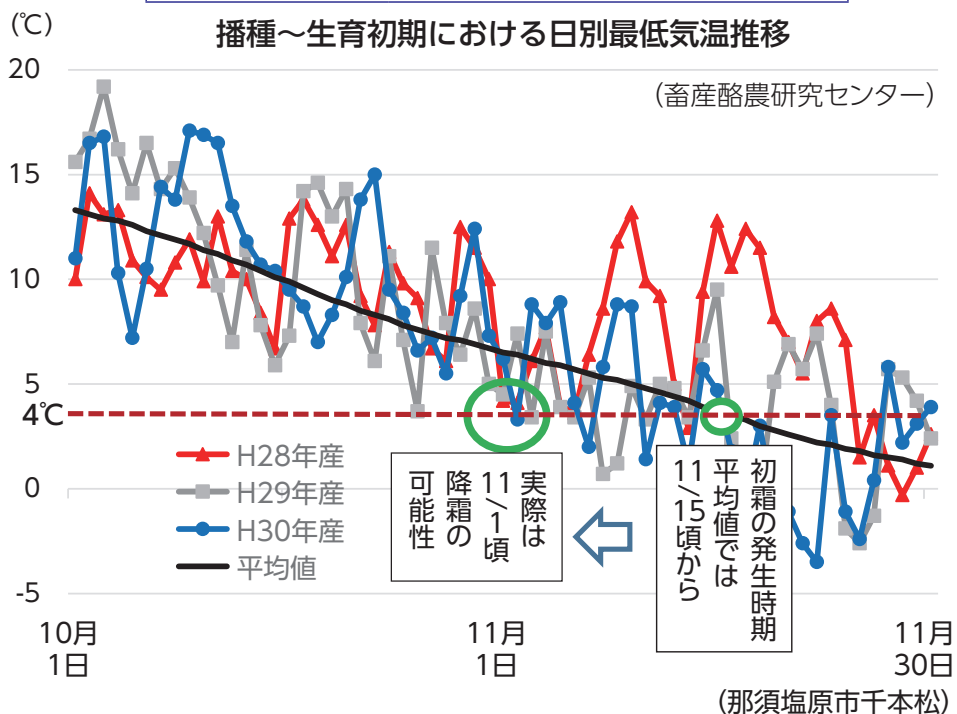
それは、『霜や霜柱が発生する前に根をしっかり張らせること』です。

霜の発生は、平均値ですと11月15日頃(大田原アメダス)ですが、実際はそれより早く4℃を下回ることが分かります。

また、ほ場の気温は気象台の記録より低いことが多いことから、自身のほ場の最低気温は何度なのか、最高最低温度計などを設置して調べてみましょう。

霜の発生条件

- ・気温4℃以下
- ・平均風速3.0m/s 以下



播種が遅れた場合、指導書などでは「播種量を多くする」と記載されています。あるいは、施肥量を増やそうとするかもしれません。しかし、種代や肥料代が余計にかかりますし、そもそも効果があるのでしょうか？

## 適量を播種しましょう!

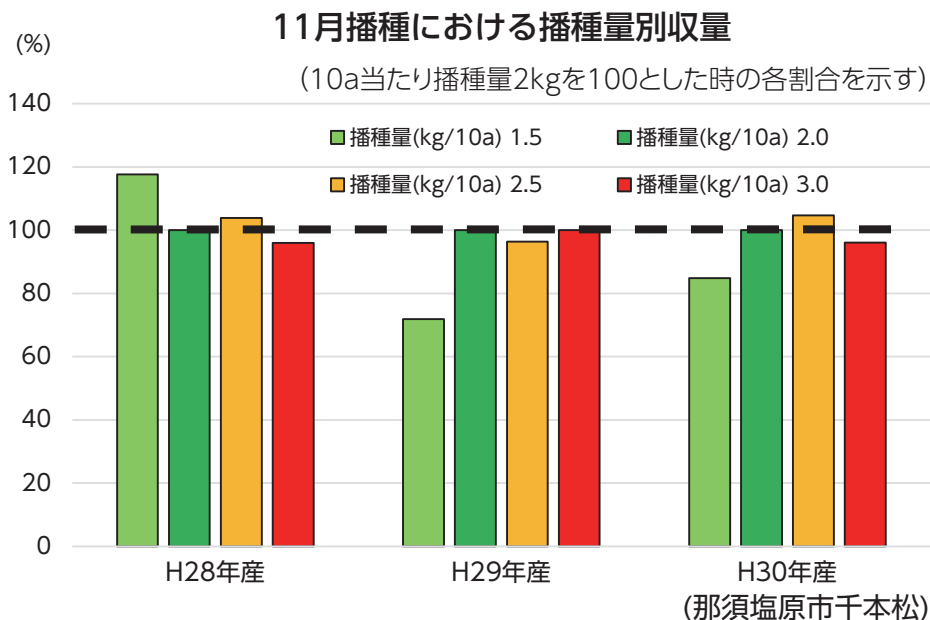
播種が遅くなっても、多く播けばいいと思いませんか？

### 多く播いても効果なし!2.0~2.5kg/10aが適量!

播種量を変えて11月播種時の収量を調査しました。

10a当たり1.5kgでは年によって収量が低下することがありました。

一方、10a当たり3kg以上播いても収量が上がることはなく、増収効果は期待できません。



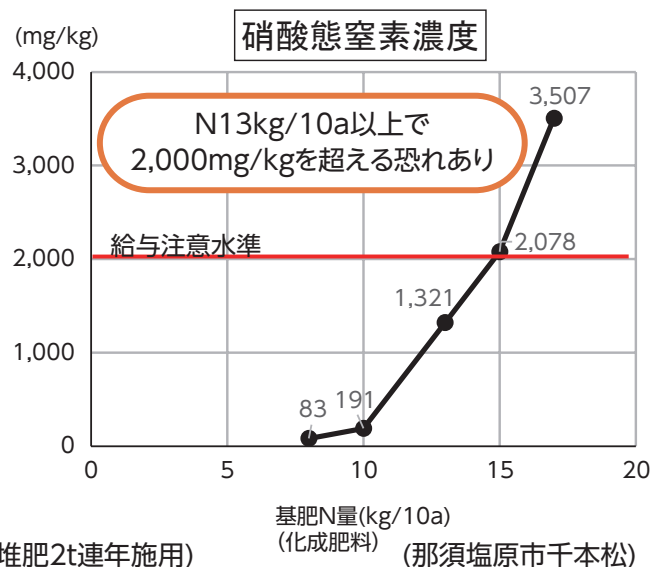
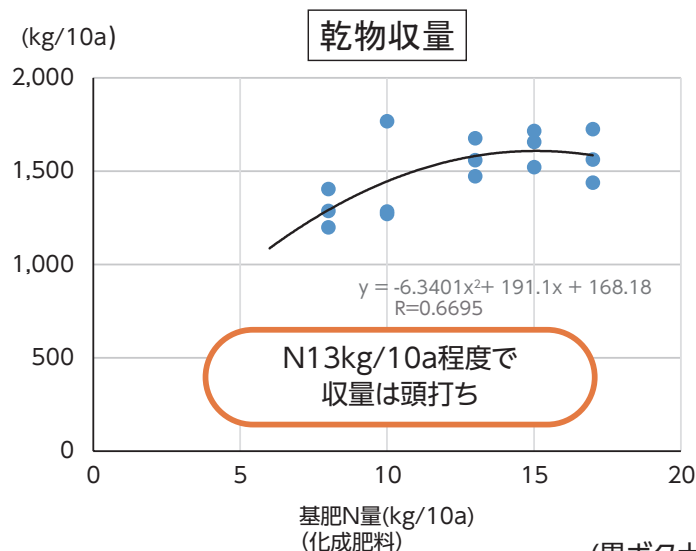
## 適正施肥で収量アップ!安全安心を確保!

肥料は入れれば入れるほどいいと思いませんか？

### 収量、硝酸態窒素濃度から、窒素施肥量は13kg/10aが適正!

最適な施肥量を調べるため、窒素投入量を変えて収量を調査しました。

また、収穫物に含まれる硝酸態窒素についても調査しました。窒素は、収量確保のために重要な肥料のひとつですが、硝酸態窒素として作物体に蓄積され、2,000mg/kg以上は給与時に注意が必要とされています。



## 適正な播種量、時期、施肥量を組み合わせ、 確実な収量アップを目指しましょう!

畜産酪農研究センター(那須塩原市千本松、標高310m)では、このような結果となりましたが、収量確保に最適な条件は、ほ場の場所や土質・地力などによって変わります。

## うちのほ場にはどのくらい肥料いれたらいいの?

### 土壌診断で草地を見直しましょう!

◆堆肥のみ、化成のみでは土壌成分のバランスが悪化します

◆土壌pHの違いで肥料の有効性は大きく変化します

<イタリアンライグラスの施肥基準量(kg/10a)>

成分	窒素	りん酸	加里	土壌の適正pH
施肥量	13 (追2)	12	25	5.5~6.0

※栃木県農作物施肥基準

## 高位安定生産の基本は土壌の改良・維持!

### (参考) 本県におけるイタリアンライグラスの奨励・認定品種一覧表

品 種 名	早 中 晩	草型	草丈 (cm)	耐倒 伏性	特性及び栽培上の注意
ワセユタカ	早	直立	109	やや強	初期生育に優れ、年内及び早春の収量は高いが、再生力は低く、冠さび病に弱い。
タチマサリ	早	直立	107	強	初期生育が良好で、強稈である。冠さび病に弱いため、極端な早播きは避ける。
いなずま☆	早	直立	102	強	耐倒伏性が強く、再生力も良好である。葉量も多く生草収量が多い。
タチムシャ☆	中	直立	111	強	初期生育は良好であるが、いもち病による立枯れの心配があるため、極端な早播きは避ける。
タチサカエ	中	直立	113	強	春の生育が良好で再生力が強く、収量が多い。極端な早まきは「いもち病」の被害を受けることがあるのでさける。
ジャイアント	中晩	ほふく	104	中	冠さび病抵抗性が強く、再生力旺盛である。混播の場合、他草種を被圧する恐れがあり、刈り遅れないようにする。

☆印は認定品種

注)草丈は平成24~26年度における一番草の平均値

お問い合わせ先：各農業振興事務所 経営普及部 最寄の事務所にお問い合わせください  
 畜産酪農研究センター 企画情報課 TEL：0287-36-0768  
 経営技術課 技術指導班 TEL：028-623-2321  
 畜産振興課 環境飼料担当 TEL：028-623-2350  
 発 行：畜産酪農研究センター 企画情報課 TEL：0287-36-0768